

令和4年度

認定こども園大谷オアシス保育園 学校評価

テーマ 『主体的な遊び』
『乳幼児期のメディアとの関わりについて』

1、テーマの趣旨

今年度の学校評価は3つの内容について見直したいと考え、テーマを決めました。

1つは、今年度9月に実施致しました教育研究大会（札幌市内の私立幼稚園・認定こども園の職員を対象とした研修で本園の保育を公開しました）の際の、『公開保育』の研究テーマとして設けた『主体的な遊び』について、保護者の皆様にはどのように見えているのか、職員はどのように受け止めているのかという本園の保育・教育について。

次に、今年度、教職員が多くの研修会で見聞きした『乳幼児期のメディアとの関わり』について、今では私たちの生活に於いて、テレビやパソコン、スマートフォンは当たり前の道具となりました。その中で乳幼児期のメディアとの関係性については、メリット・デメリットが様々ある中で、保護者の方はどのように生活に取り入れているのか、どのような情報をお持ちなのかを知りたいと思いました。

最後に、今年度は保育園や幼稚園で、子どもが命を落としてしまうという痛ましい事件が多数ありました。他園の出来事として捉えるのではなく、今一度自園における管理体制について見直しておきたいと項目に加えました。

また、昨年度同様、同一建物内にあります姉妹園と学校評価委員が同じことから、今年度も合同で取り組むことと致しました。

2、令和3年度の学校評価の実施手順等について

今回実施する学校評価の実施手順等は次のとおりです。

- | | |
|------------------------------|---------|
| ① 重点目標の設定、評価項目の設定、教職員への説明・周知 | 令和4年10月 |
| ② 学校評価委員会の開催 | 令和4年10月 |
| ③ 教員自己評価の実施 | 令和4年12月 |
| ④ 保護者アンケートの実施 | 令和4年12月 |
| ⑤ 園自己評価の実施 | 令和5年1月 |
| ⑥ 学校評価委員会報告 | 令和5年3月 |

尚、この自己点検結果は、学校評価委員会報告と共に、学園理事長に報告され、その後、概要を公表する予定です。

3、令和3年度の学校評価の重点目標と評価項目

○重点目標

『主体的な遊び』

『乳幼児期のメディアとの関わりについて』

○評価項目

- I 園の管理体制
- II 主体的な遊び
- III 乳幼児期のメディアとの関わり

4、点検結果—現状・課題・改善方向

I 園の管理体制

昨年と比較し、当園の雰囲気に関し親しみを感じて頂けていることや、園の教育目標が子どもたちの中で育っていると感じて頂けたことを嬉しく思いました。

災害時における対応については、入園説明会の際に『重要事項説明』として必ずお伝えし、同意書を頂いているものの、入園以降、このことについて改めて話す機会を設けていなかったこと等から、少数ではありますが『あまり出来ていない』という回答となったのではないかと反省致しました。また、園の危機管理体制については、園長・教頭が話すことが多く、職員の自己評価の低さに繋がっているように思います。保護者の方に伝えている内容をしっかりと職員間で共有し、一人一人が理解し誰もが説明できる大切さを感じました。

応急手当について、多くの職員が自分自身の知識について自信がないことが分かりました。万が一の時に判断し行動することは難しいことだからこそ、繰り返し学び続ける必要性を感じました。以上のことを踏まえ、Bと評価します。

II 主体的な遊び

『主体的な遊び』についての項目に於いては、保護者の方の回答は『十分出来ている』『ほぼ出来ている』が10割という結果に、園として職員が取り組んできた保育・教育が伝わっていることを感じました。その中でも、保護者の方が“園の活動で子どもが生き生きとしていると感じる場面はありますか？”という問いに対し、『十分にある』と全員が答えて下さったことが、何よりも嬉しかったです。

“保育を『楽しい』と感じ、子どもと遊んでいますか？”という問いに対する職員の答えが物語っている様に、保育者として何よりも保育の楽しさを感じながら、子ども達に日々寄り添い、子ども達が夢中になって遊ぶことができる環境作りに努めている思いが表れているのではないかと感じました。

現状に満足することなく、これからも『遊び』に対する探究心を持って、子ども達と共に育ち合っていきたいという決意も込めて、Aと評価します。

Ⅲ 乳幼児期のメディアとの関わりについて

保護者の方の多くが、メディアと聞いて“TV”と“YouTube”を思い浮かべているということが分かりました。私たちは、スマートフォンの方が手軽に持ち歩けることから、もっと手軽に活用していることを想像していましたが、TVを見始めたのは、0歳児の時が多数なのに対し、スマートフォンの利用については、一定の年齢に達するまで見せないようにしていたり、扱う上でのルールを作って制限をしたり、慎重に活用していることが伺えました。

私たち職員が研修等で見聞きしているメディアについてのデメリットの部分について、保護者の方も認識しているのだと感じました。小学校の学習では、既にタブレットが導入されており、今後の私たちの生活とメディアとの関係は切り離せないものとなっていくと思います。しかしながら、幼児教育の場に於いては、学ぶ上で不便さが大切なこともあると思います。便利だからと安易に取り入れるのではなく、本園にとって本当に必要な道具なのかを、これからも慎重に模索し検討していきたいと思います。以上のことから、B+と評価します。

5、最後に

今年度は、保育・教育の場に於いて、子ども達が亡くなる痛ましいニュースがたくさん報道されました。保育の仕事に興味・関心を持ちながらも、子ども達の命を預かる責任の重さから、退職していく方も少なくありません。コロナ禍になり、今まで以上の重責を担ってくれている職員達には、園長として感謝しかありません。子どもたちが安心して園生活を送り、生き生きと遊ぶことができるよう、これからも『小さな気付き』を見逃さず、報告・連絡・相談を気軽にできる職場環境でありたいと思います。そして、保護者の皆様には安心してお子様を預けることのできる園であり、子ども達の成長を一緒に見守ることのできる関係を築いていきたいです。

最後になりましたが、大変お忙しい中、今回の点検・評価にご協力頂きました保護者の皆様、評価委員の皆様方に対しまして、心より感謝申し上げます。

令和5年2月

認定こども園大谷オアシス保育園
園長 中里 泰子